No. [illegible]

フィリピン共和国

フィリピンノーマルカレッジ付属図書館建設計画

基本設計調査報告書

昭和58年5月

国際協力事業団

無償設
[redacted]
83－52

フィリピン共和国

フィリピンノーマルカレッジ付属図書館建設計画

基本設計調査報告書

JICA LIBRARY
1061327[1]

昭和58年5月

国際協力事業団

国際協力事業団
受入月日 '85. 1.21
登録No. 11038
118
01.7
GRB

序　　　　文

日本国政府は，フィリピン共和国政府の要請に基づき，フィリピン・ノーマル・カレッジ図書館の施設建設にかかる基本設計調査を行なうことを決定し，国際協力事業団がこの調査を実施した。

国際協力事業団は，1983年1月19日より21日間に亘り，当事業団無償資金協力部基本設計課課長代理松岡和久を団長とする基本設計調査団を現地に派遣し，フィリピン国関係者と協議を行なうとともに，現地踏査を実施した。調査団の帰国後，国内解析作業を経て，ここに本報告書完成の運びとなった。

本報告書が，本計画の推進に寄与するとともに，同国の教育振興に多大の成果をもたらし，ひいては，両国の友好，親善関係の増進に資すれば幸いである。

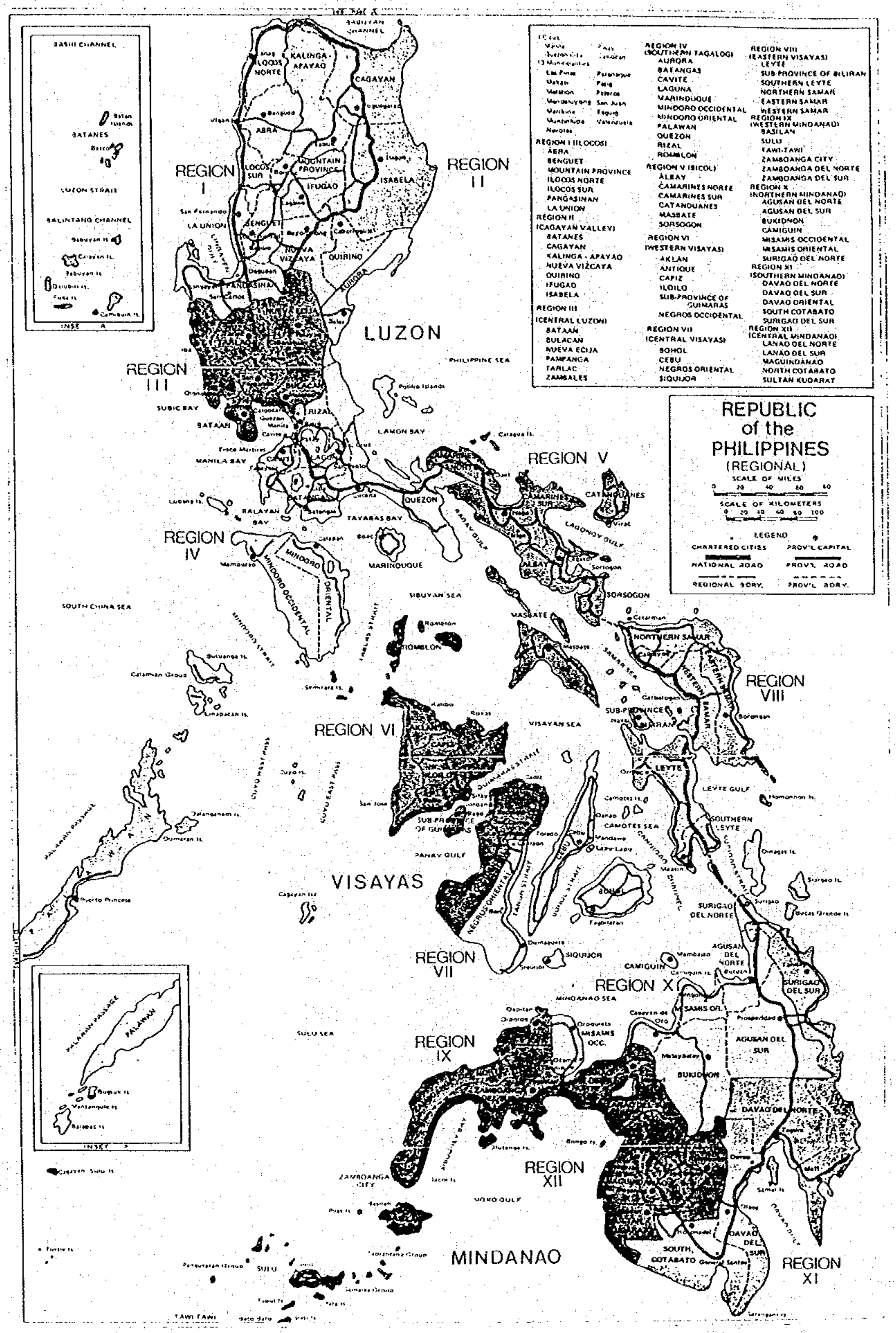
最後に本件調査にご協力とご援助をいただいた関係各位に対し，心より感謝の意を表するものである。

昭和58年5月

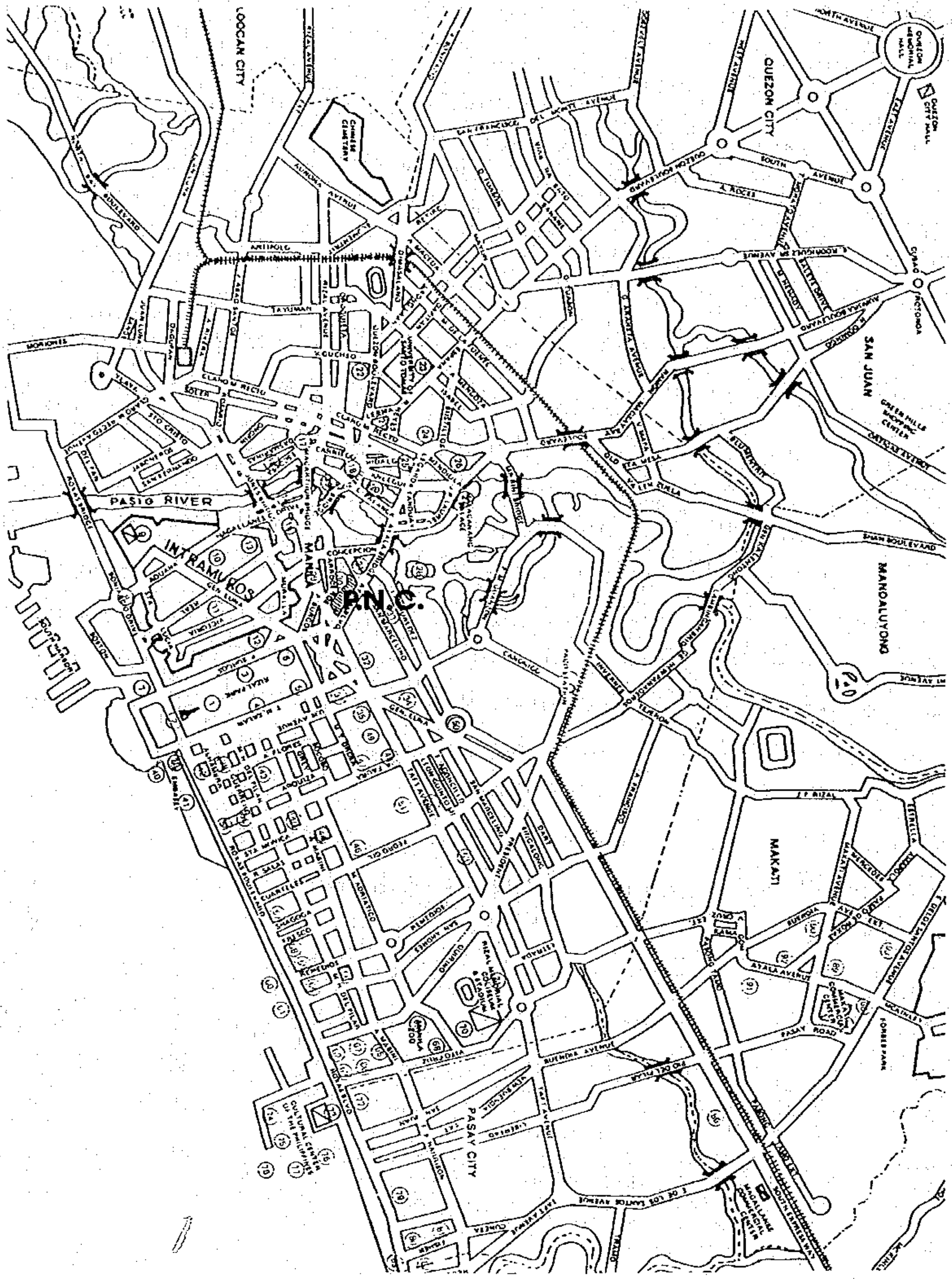
国際協力事業団

総裁　有　田　圭　輔

PHILIPPINE NORMAL COLLEGE LIBRALY


REPUBLIC
of the
PHILIPPINES
(REGIONAL)
SCALE OF MILES
SCALE OF KILOMETERS
LEGEND
CHARTERED CITIES
PROV'L CAPITAL
NATIONAL ROAD
PROV'L ROAD
REGIONAL BDRY.
PROV'L BDRY.
REGION I (ILOCOS)
ABRA
BENGUET
MOUNTAIN PROVINCE
ILOCOS NORTE
ILOCOS SUR
PANGASINAN
LA UNION
REGION II
(CAGAYAN VALLEY)
BATANES
CAGAYAN
KALINGA - APAYAO
NUEVA VIZCAYA
QUIRINO
IFUGAO
ISABELA
REGION III
(CENTRAL LUZON)
BATAAN
BULACAN
NUEVA ECIJA
PAMPANGA
TARLAC
ZAMBALES
REGION IV
(SOUTHERN TAGALOG)
AURORA
BATANGAS
CAVITE
LAGUNA
MARINDUQUE
MINDORO OCCIDENTAL
MINDORO ORIENTAL
PALAWAN
QUEZON
RIZAL
ROMBLON
REGION V (BICOL)
ALBAY
CAMARINES NORTE
CAMARINES SUR
CATANDUANES
MASBATE
SORSOGON
REGION VI
(WESTERN VISAYAS)
AKLAN
ANTIQUE
CAPIZ
ILOILO
SUB-PROVINCE OF GUIMARAS
NEGROS OCCIDENTAL
REGION VII
(CENTRAL VISAYAS)
BOHOL
CEBU
NEGROS ORIENTAL
SIQUIJOR
REGION VIII
(EASTERN VISAYAS)
LEYTE
SUB-PROVINCE OF BILIRAN
SOUTHERN LEYTE
NORTHERN SAMAR
EASTERN SAMAR
WESTERN SAMAR
REGION IX
(WESTERN MINDANAO)
BASILAN
SULU
TAWI-TAWI
ZAMBOANGA CITY
ZAMBOANGA DEL NORTE
ZAMBOANGA DEL SUR
REGION X
(NORTHERN MINDANAO)
AGUSAN DEL NORTE
AGUSAN DEL SUR
BUKIDNON
CAMIGUIN
MISAMIS OCCIDENTAL
MISAMIS ORIENTAL
SURIGAO DEL NORTE
REGION XI
(SOUTHERN MINDANAO)
DAVAO DEL NORTE
DAVAO DEL SUR
DAVAO ORIENTAL
SOUTH COTABATO
SURIGAO DEL SUR
REGION XII
(CENTRAL MINDANAO)
LANAO DEL NORTE
LANAO DEL SUR
MAGUINDANAO
NORTH COTABATO
SULTAN KUDARAT
REGION I
REGION II
REGION III
REGION IV
REGION V
REGION VI
REGION VII
REGION VIII
REGION IX
REGION X
REGION XI
REGION XII
LUZON
VISAYAS
MINDANAO
BASHI CHANNEL
BATANES
LUZON STRAIT
BALINTANG CHANNEL
BABUYAN CHANNEL
PHILIPPINE SEA
SOUTH CHINA SEA
SIBUYAN SEA
VISAYAN SEA
SULU SEA
MINDANAO SEA
CAMOTES SEA
SAMAR SEA
MORO GULF
LEYTE GULF
LAMON BAY
SUBIC BAY
MANILA BAY
TAYABAS BAY
PANAY GULF
DAVAO GULF
MARINDUQUE
MASBATE
LEYTE
CEBU
BOHOL
SIQUIJOR
CAMIGUIN
SULU
TAWI-TAWI
ZAMBOANGA CITY
PALAWAN
PALAWAN PASSAGE
INSET

フィリピン全図


CALOOCAN CITY
QUEZON CITY
SAN JUAN
MANDALUYONG
INTRAMUROS
P.N.C.
MAKATI
PASAY CITY

マ ニ ラ 市 街 図

目　　次

略　号

要　約 ………… 1

本　編

第1章　緒　論 ………… 3

第2章　計画の背景 ………… 5

2－1　フィリピンの教育 ………… 5

2－1－1　一般概況 ………… 5

2－1－2　歴　史 ………… 5

2－1－3　制　度 ………… 6

2－1－4　行政組織 ………… 6

2－1－5　教育の現状 ………… 8

2－2　フィリピンの教員養成教育の現状 ………… 9

2－2－1　歴　史 ………… 9

2－2－2　教員養成機関 ………… 10

2－2－3　教員資格 ………… 12

2－2－4　教員国家試験 ………… 17

2－3　第6次開発5ケ年計画における教育目標 ………… 18

2－3－1　目　標 ………… 18

2－3－2　教員需要 ………… 19

2－4　フィリピンノーマルカレッジ（PNC） ………… 20

2－4－1　歴　史 ………… 20

2－4－2　運営組織と教職員 ………… 20

2－4－3　学　生 ………… 23

2－4－4　PNCの活動 ………… 26

2－4－5　施設の現況 ………… 29

2－5　フィリピンノーマルカレッジ図書館の現況 ………… 30

2－5－1　歴　史 ………… 30

2－5－2　施　設 ………… 30

2－5－3　組織及び人員 ………… 30

2－5－4　閲覧座席数及び利用状況 ………………………… 30
2－5－5　ＰＮＣ図書館とフィリピンの他大学図書館との比較 ………………………… 35

第３章　フィリピンノーマルカレッジ図書館施設計画 ………………………… 39
3－1　図書館建設の目的 ………………………… 39
3－2　図書館の活動 ………………………… 39
3－3　蔵書目標及び閲覧座席数 ………………………… 40
3－4　図書館組織と人員配置 ………………………… 44
3－5　必要とされる施設内容 ………………………… 46
3－6　必要とされる資機材内容 ………………………… 48

第４章　計画地の状況 ………………………… 51
4－1　施設の概況 ………………………… 51
4－1－1　位置及び周辺概況 ………………………… 51
4－1－2　敷地の現況 ………………………… 51
4－1－3　地盤状況 ………………………… 64
4－2　インフラストラクチャー ………………………… 69
4－2－1　電力 ………………………… 69
4－2－2　電話 ………………………… 69
4－2－3　上水道 ………………………… 69
4－2－4　下水道 ………………………… 69
4－2－5　ガス ………………………… 70
4－3　工事施工条件 ………………………… 72

第５章　基本設計 ………………………… 75
5－1　設計の基本方針 ………………………… 75
5－2　計画内容 ………………………… 75
5－2－1　規模計画 ………………………… 75
5－2－2　計画諸室 ………………………… 78
5－2－3　機能図 ………………………… 80
5－3　配置計画 ………………………… 81
5－3－1　ブロックプランの選択 ………………………… 81
5－3－2　基本事項 ………………………… 81

5－3－3　ブロックプランの評価比較 …… 82
5－4　建築計画 …… 83
5－4－1　平面計画 …… 83
5－4－2　構造計画 …… 92
5－4－3　スパン割計画 …… 93
5－4－4　階高計画 …… 93
5－4－5　その他 …… 94
5－5　付帯設備計画 …… 96
5－5－1　電気設備 …… 96
5－5－2　衛生設備 …… 97
5－5－3　空調換気設備 …… 98
5－5－4　昇降機設備 …… 98
5－6　資機材計画 …… 101
5－6－1　図書館用家具 …… 101
5－6－2　図書館用備品 …… 103
5－6－3　ブックディテクションシステム（B.D.S.）…… 104
5－6－4　日本関係図書 …… 104
5－7　基本設計図 …… 105
5－7－1　床面積 …… 105
5－7－2　各室の面積 …… 105
5－7－3　設計図 …… 108
5－8　概算工事費 …… 119

第6章　事業実施体制 …… 121
6－1　事業主体 …… 121
6－2　建設プロジェクト実施計画 …… 121
スケジュール及び工事範囲ー両国の工事負担範囲
6－2－1　工事範囲 …… 121
6－2－2　実施設計及び工事監理 …… 122
6－2－3　工事施工 …… 122
6－2－4　全体スケジュール …… 123
6－3　運営組織及び運営費概算 …… 123

第7章　事　業　評　価 ······ 125
7－1　社会，経済的評価 ······ 125
7－2　財　政　的　評　価 ······ 126
7－3　組織人員的評価 ······ 126
7－4　技　術　的　評　価 ······ 127

第8章　結　論　と　提　言 ······ 129

資　料　編
資料Ⅰ　基本設計調査団ミニッツ ······ 131
〃　Ⅱ　基本設計調査団の構成と関係者リスト ······ 132
〃　Ⅲ　基本設計調査日程 ······ 135
〃　Ⅳ　ドラフトファイナルレポート説明ミッション関係 ······ 138
〃　Ⅴ　フィリピンノーマルカレッジ及び周辺各大学案内図 ······ 142
〃　Ⅵ　地階・空調設備の有無によるコスト比較 ······ 144
〃　Ⅶ　閉架書庫の位置の違いによるコスト比較 ······ 148
〃　Ⅷ　地震力の算定，荷重表 ······ 150
〃　Ⅸ　参　考　文　献 ······ 158

略　号

MPWH	Ministry of Public Works and Highways
MECS	Ministry of Education, Culture and Sports.
MERALCO	Manila Electric Company
MWSS	Metropolitan Waterworks and Sewerage System
NCR	National Capital Region
NEDA	National Economic and Development Authority
PNC	Philippine Normal College

要　　　　　　約

要　　　約

フィリピン共和国における教育事情の特色は，アジア諸国のうちで，比較的学校教育が普及していることである。近年，特に同国政府は，人口増に伴ない，初等及び中等教育の就学率，教育と人材開発等の質的向上，人材養成を国家目標としてかかげ，教育活動拡大の施策を押し進めている。

フィリピンノーマルカレッジは，同国において1901年に創立された公立最初の教員養成教育のための学校であり，以来多くの優れた教育者を輩出している。現在施設内容として，敷地約42,000m²，施設延床面積合計21,844m²，本部キャンパスは学部学生4,456人，大学院生533人，教官300人，教育実習併設校として初等及び中等学校を有している。また4カ所に分校を持ち，その学部学生は2,800人である（1982年）。同校の活動は，教員養成教育・研究をはじめ，初等・中等学校の教科書，教材開発，社会教育，心身障害児教育，教員再教育，近隣大学との講座，学位提携等と多岐にわたり，内外の各種団体と連合し，国際交流を進めスタッフの交流等を図り，その活動によって高い評価を得て今日に至っている。

しかし学生，研究者が最も必要とする同大学の図書館は，現在，数カ所に分散され，蔵書及び閲覧座席の収容力の点から限界に達し，その機能が十分に発揮できず，支障をきたしている。

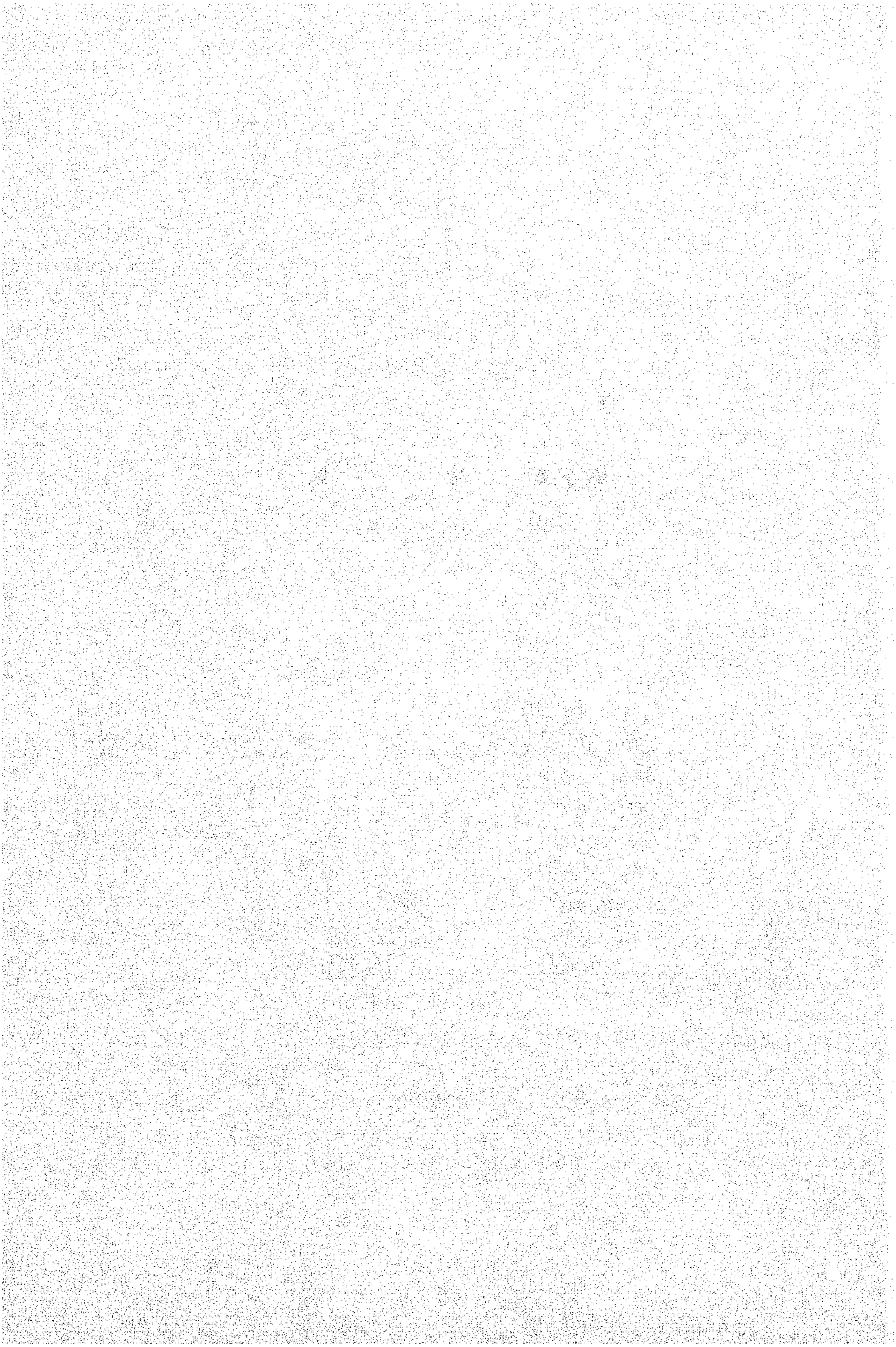
本計画は，これらの諸問題を解決すべく，分散している図書館を統合し，集中化することを目標に適切な規模の図書館施設を建設することによって，その機能を拡大し，教育活動を更に発展させることを目的としている。

現在調査及び資料分析の結果，17年後の蔵書目標数302,000冊，閲覧座席数1,186席と設定し，初等・中等学校図書館，図書館学科図書室の併設を考慮して，施設床面積約6,740m²の規模が考えられ，オーディオビジュアル機器を含む図書館機材が必要とされる。

プロジェクトサイトはマニラ市街地のほぼ中央部，タフト通りとアヤラ通りの交叉点に位置しており，本件図書館の建設には約13.7億円が必要で，建設工期としては約15カ月間を要すると考えられる。

大学図書館は" Library is the Heart of the University "と云われているが，大学の近代化に伴う図書館機能の重要性は近年急速に増大している。即ち，総合的な教養の場としての役割を果たすと共に，情報化社会における多種多様な専門学術文献資料の収集整備による情報提供の機関としての責を負っている。そのためには，強固な組織による運営が必要とされる。フィリピンノーマルカレッジ図書館がこの役割を果たすことによって，フィリピンの教育の向上に寄与すると共に，人材養成の質的向上にも貢献する意義は大なるものがあると考える。

第 1 章　緒　論



第一章　緒　　論

フィリピン共和国は，１９７８年に始まった開発５ケ年計画において特に教育と人材開発の質的向上に力を入れており，教育水準の向上にむけて，大学を始めとする教育機関の整備と拡充を図っている。

フィリピンノーマルカレッジ（以下ＰＮＣと称する）は，フィリピン共和国で最初に創立された教員養成のための大学であり開校以来，学部，講座の充実を図り，多くの優れた教育者を輩出するとともに，海外からも留学生を受け入れ，内外から高い評価を得て，今日に至っている。

しかしながら学生，研究者の最も必要とする同大学の図書館の現状はキャンパス内各建物に分散を余儀なくされ，施設資料の利用及び資料保存の面からも早急な整備が必要とされる。フィリピン共和国政府はその重要性にかんがみ，分散された図書館の統合計画をたて，我国の協力を要請した。

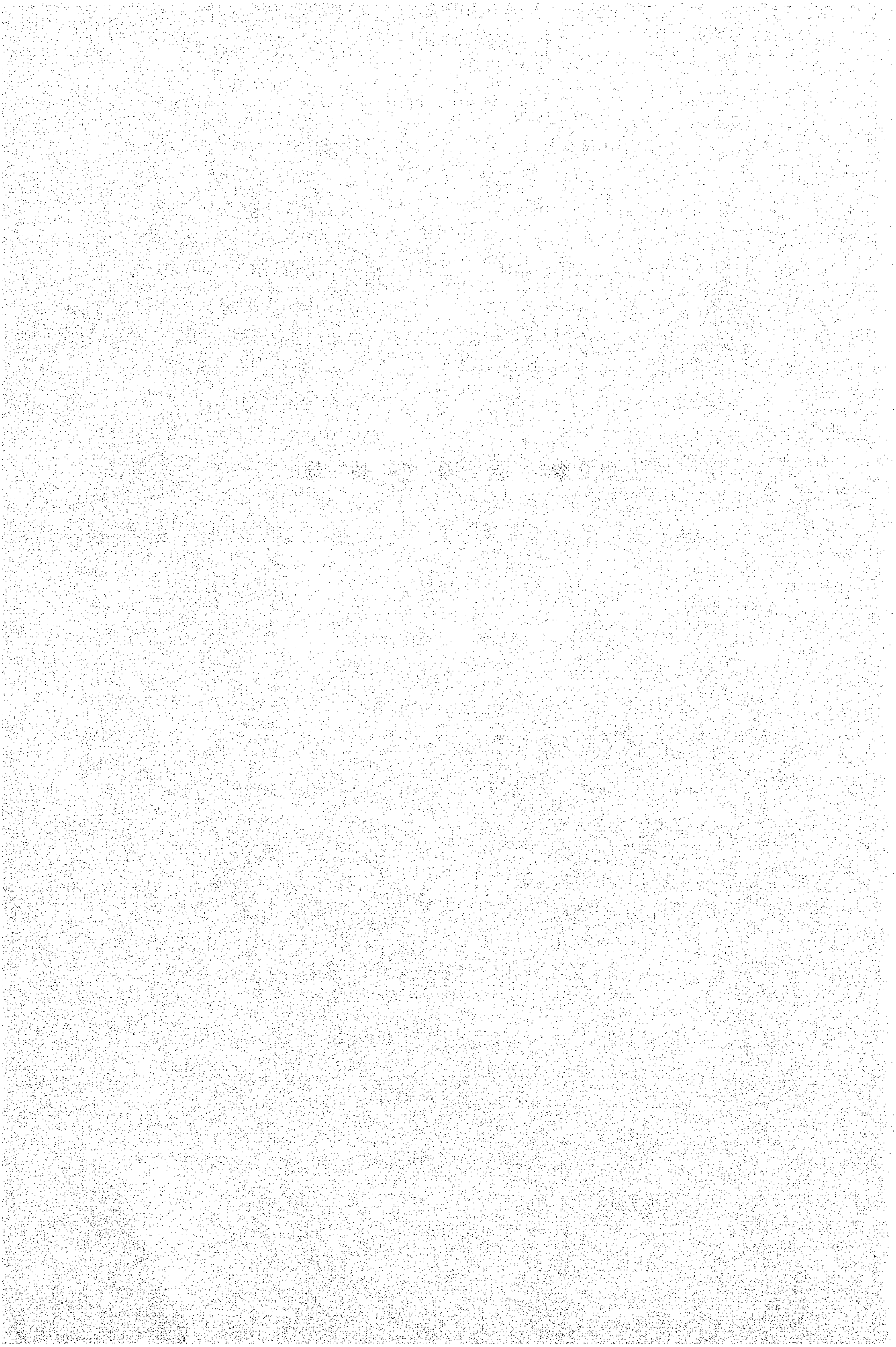
このノーマルカレッジ図書館の統合計画は，キャンパス内に分散されている図書館を一つの建物に統合し，文献，情報等の図書資料をより多くの利用者に，有効かつ迅速に提示することにより，教育と人材開発の質的向上を図ることを目的としたものである。

我国は，この要請にこたえて国際協力事業団（以下，ＪＩＣＡと称する）を通じ，無償資金協力の可能性の調査及び最適施設設計を行うべく，本年１月19日～２月８日までの21日間ＪICA無償資金協力部基本設計課　松岡和久　を団長とする調査団をフィリピン国に派遣し，関係者との協議並びにプロジェクト予定地の踏査を行った。

この報告書は現地調査結果をふまえ，その後の分析，研究の結果を整理した上，基本設計としてまとめたものである。

なお，調査団の構成，現地調査日程及びミニッツ文面については資料編による。

第2章　計　画　の　背　景



第2章　計 画 の 背 景

2－1　フィリピンの教育

2－1－1　一般概況

フィリピンは人口約4,810万人（1980年），国土は299,404㎢で島の数7,109，民族は以前ネグリート族が中央アジアから流入したが（現在約2.5万人）その後マレー系種族が流入し，現在はこの種族が主体となっている。

宗教は全人口の92%がキリスト教である。このうち83%がカソリック，9%がプロテスタントで，7%はイスラム教，その他は仏教，原始宗教となっている。

言語はタガログ語を基本とするフィリピノなる共通語を現在ひろめつつある段階で公用語としては英語とタガログ語を用いている。

国民1人当りのGNPは6,351ペソ※である（＝690米ドル，9.2ペソ＝1米ドル換算）

※1981年NEDA資料

国土は北緯4°30′～21°30′，東経117°15′～127°30′に位置し南北約1,850㎞，東西1,120㎞，人の居住している島は約1,200，面積2.5㎢以上の島は466，主な島はルソン島（35%），ミンダナオ島（32））以下7つの大きな島のみで，全土の約81%，人口の80%以上を占めている。

平地が少なく，山地が全土の65%を占めている。

マニラ市はルソン島中央部に位置し，人口5,926千人（1981年）となっている。

2－1－2　歴　史

フィリピンの近代教育制度は，16世紀から約3世紀半にわたるスペイン統治時代に，カトリック諸派が大学を設立したことに始まる。

1601年にはサン・ホセ大学が創設され，1611年にはサント・トマス大学が設置された。サント・トマス大学は後にサン・ホセ大学を吸収し，アジア最古の大学として現在に至っているが，1871年に既に総合大学の形を整えている。

スペイン統治時代の末期には，民族意識が高まり，初等義務教育制度も導入された。

更に19世紀末から，約半世紀のアメリカ統治時代には総合的な公立教育制度の確立，教育と宗教の分離などがもたらされ，初等教育の普及，国立大学の設置などがみられた。

1946年の独立以来，教育の発展にはいっそう力が注がれ，アジアの中でも最も急速に教育を発展させた国の一つにあげられている。

2−1−3　制　　度

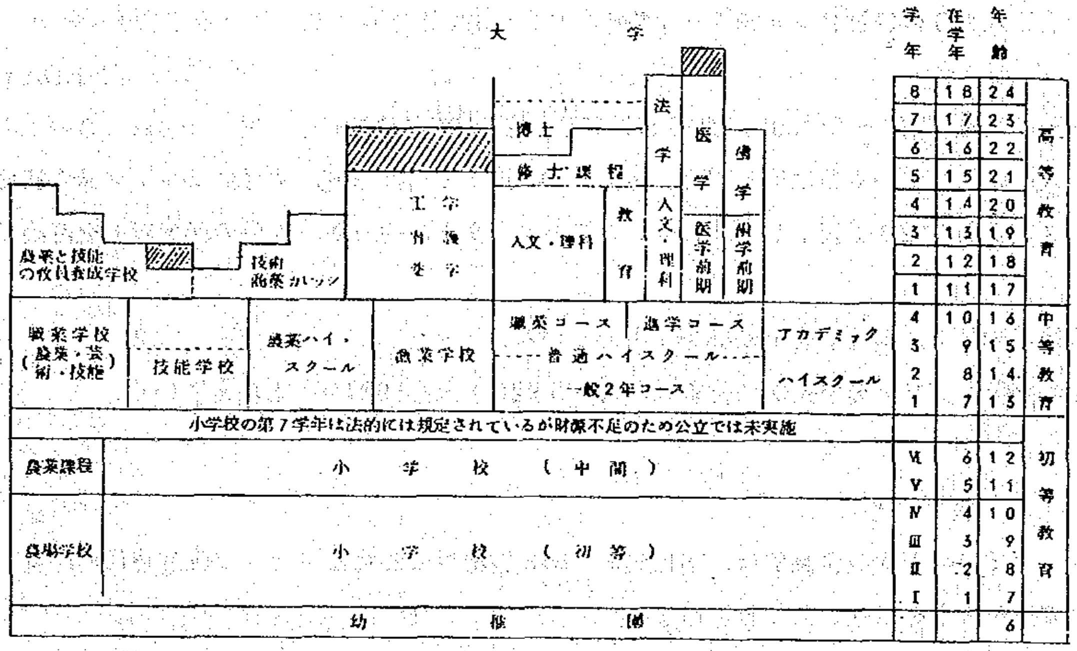
現在の学校教育制度は図２−１の学校系統図に示す様に７才から６年間の初等教育が始まるが，これは義務教育となっている。

１９７３年の初等教育法では，初等教育を７年間と規定しているが，一部の私立学校を除き，公立学校では財政上の理由から，６年間の初等教育しか行っていない。

中等教育は４年間で普通課程と職業課程に分かれる。４年制の国立又は私立大学に進学するためには，教育文化省の中におかれている国立教育テストセンター（National Educational Testing Center）が実施する大学入学試験に合格しなければならないが，一部の大学では更に二次試験を行っている。

高等教育は２年ないし３年の各種専門学校と４年制の大学とであるが，法学，工学，医学の履修は５年以上を要する。

図２−１　学　校　系　統　図



（出所）Sohrepena, Human resource development, Journal of Educational Research, Vol.V, No. 1, Sept. 1968.

（備考）斜線は実習期間を示す。

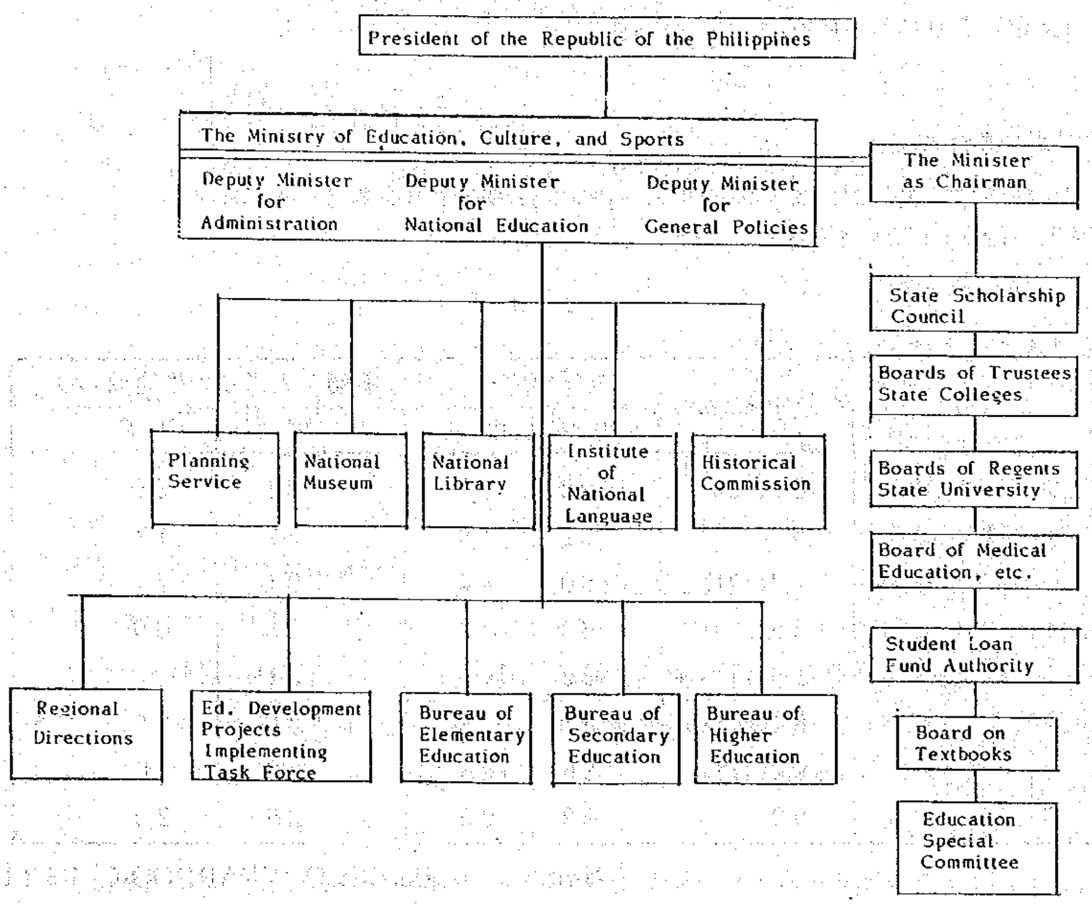
2−1−4　行　政　組　織

教育文化省の組織は図２−２によるが，フィリピンの教育の直接責任は政府が負い，大統領の内閣に属する教育文化省大臣がこれを統轄する。

大臣は３人の次官によって補佐され，この組織によってすべての教育課程に対して一般的な統轄を行なう。教育文化省は又国立大学と特許状によるカレッジを除き，すべての教育機関について直接責任を負い，私立の学校，カレッジ，大学を含めて監督し規制する。

図2－2

ORGANIZATION OF THE
MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE AND SPORTS



32 Bulletin of the UNESCO Regional Office, P. 140.
28 Report of the Presidential Commission to Survey Philippine Education, PP.232-233.

上記資料を現地調査により修正し調査団作成（1983）

教育文化省はこれらの職務の行使を公立学校局，職業教育局，私立学校局に委任し，自治体及び州政府の職員に協力する形となっている。

公務委員会，会計検査院，公共事業局等の政府機関は学校管理に直接影響力を持ち，国家教育委員会は教育目標と教育政策の策定に関して責任を負う。

大臣，次官，局長及び局長補は共和国大統領により任命される。

表中の国立大学及び国立カレッジは特許状と自治権を保有するが，学校運営の評議会（Board of Trustees 又はBoard of Regents）議長には教育文化大臣が就任することで教育文化省と直結している。

2－1－5　教育の現状

アジアにおける主な国の識字率と初等，中等学校の就学率を表２－１に示す。

表　2－1

国	識字率（%）	就学率（%）		教師１人当りの生徒数（人）	
		初　等	中　等	初　等	中　等
フィリピン	89('82)	90	55	31	26
インドネシヤ	62	92	19	32	17
シンガポール	72('71)	100	44	31	24
インド	36	65	29	43	20
ネパール	19	59	14	31	24
タイ	84('76)	83	28	35	25
マレーシア	60('72)	95	48	32	28
日本	99	99	95	25	20

Source ： UNESCO YEARBOOK 1981

上記でみるとフィリピンはアジア諸国のうちで比較的教育が普及しているのが識字率からもわかるが，初等教育と比べて中等教育の就学率が各国共減っているのは義務教育との関係である。中等教育の就学率は各国50%以下に対しフィリピンが55%とわずかにうわまわっているが，これは第５次開発５ケ年計画（1978～1982）において中等教育の就学率向上に力をそそいだ結果であり，この成果をふまえて更にその向上をはかっている。

最近のフィリピンにおける各レベルの学校数，生徒数，教師数及び就学率を表2－2に示す。

表 2－2

区　分	学校数	生徒数	教師数	就学率
初等教育	官立 30,595 私立 1,183※ 計 31,778	7,721,225 409,905※ 8,131,130	225,343	90%
中等教育	官立 3,125 私立 1,990 計 5,115	1,527,342 1,401,183 2,928,525	52,435 33,683 86,118	58%
高等教育	官立 298 私立 794 計 1,092	1,276,016	43,770	14.97%

SOURCES：教育文化省資料 1981　※印 1980年

上記でみると，官立と私立との学校数の比率は，官立が初等教育96%，中等教育61%，高等教育27%，生徒数についても初等教育95%，中等教育52%となり，中等教育では約半数，高等教育では更に私立の学校への依存度が高いことがうかがわれる。

2－2　フィリピンの教員養成教育

2－2－1　歴　史

スペイン統治時代においては，1863年発布された教育令は，その歴史の中で画期的なものとされている。当時中等教育は民間により又，高等教育は宗教団体によって運営される教育機関に委ねられていたが，この法令は初等教育を統一化し，教員養成制度の素地を確立するものであった。

今世紀初頭，米国統治時代の初期の状況は10才以上の全人口の識字率は44.5%であったが，文字を書く能力のあるものはこの半分にすぎなかった。

米国による公立教育制度は1901年より開始されたが，教員養成はこの目的達成のための重要な位置を占めており，このために500名の米国人教師がフィリピンに派遣され，全国で生徒を教えると共に教員養成教育も行った。この同じ時期にフィリピンノーマルカレジ（当時はノーマルスクール一師範学校の意）はフィリピン人に教育学を教えるために創立された。その歩みはフィリピンにおける公立の教員養成教育の歴史でもある。ノーマルスクールは当初，初等教育課程のみを対象としたが順次中等教育課程をも含め1920年には大学教育課程も開いた。1950年にはノーマルスクールからノーマルカレッジに昇格，学士の学位取得が可能となり，その後修士課程，1970年には博士課程も設置され，同校における教育課程は他の教育機関に

モデルとして採用されることになる。

1920年には次の8地区Ilcos Norte, Pangasinan, Albay, Cebu, Leyte, Iloilo, Bukidnon, Zamboangaにノーマルスクールが設立された。これ等のノーマルスクールはいづれも教員養成教育を行なったが，その後目的の異なる公立大学となった。

私立大学も人口急増に伴い教員養成を行うため開校されたが，そのうちの多くはフィリピンノーマルスクールの卒業者の開設によるもので，同校の教育課程が踏襲されている。

2－2－2　教員養成機関

表2－3にフィリピンにおける高等教育学校数及びそのうちの教員養成教育課程を設けている学校数を示す。

高等教育在籍者は約1,276,000人，うち教員養成教育在籍者は92,359人（1981年）で全体の7.24%である。表2－2，2－4参照。又表2－3中教員養成教育専門校はPNCを含め3校で，このうちPNCは約5,000人の在籍者を有し，教員養成教育学生の5.4%を占めている。

表2－5に1977～'81年度における高等教育機関の教員養成教育課程の在籍者の推移を示す。

表2－3　フィリピンの高等教育学校数及び教育学部を有する大学数1981～'82

地域	官立		私立		合計	
	全大学	教育学部のある大学	全大学	教育学部のある大学	全大学	教育学部のある大学
NCR※	13	10	177	43	190	53
Ⅰ	20	14	53	17	73	31
Ⅱ	18	11	23	12	41	23
Ⅲ	26	18	63	40	89	58
Ⅳ	37	14	101	47	138	61
Ⅴ	25	8	62	21	87	29
Ⅵ	56	24	53	25	109	49
Ⅶ	19	7	38	18	57	25
Ⅷ	39	13	15	11	54	24
Ⅸ	18	8	28	13	46	21
Ⅹ	16	13	51	21	67	34
Ⅺ	13	8	81	27	94	35
Ⅻ	9	5	30	13	39	18
TOTAL	309	153	775	308	1084	461

出典：PNCの資料により調査団作成　※NCR：National Capital Region

上記のうち教育養成教育専門校は，NCR　2校　PNC（官立）
The National Teacher's College(私立)
地域Ⅵ　1校　Palawan Teacher's College（官立）

の計3校である。

表 2－4

ENROLMENT IN GOVERNMENT AND PRIVATE TERTIARY INSTITUTIONS BY MAJOR FIELD OF STUDY, BY REGION

School Year 1980-1981 (First Semester)

MAJOR FIELD OF STUDY	REGION													TOTAL
	N C R	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	
AGRICULTURE	8941	1305	1787	5580	4711	3103	7157	5031	1992	3234	2876	3315	4921	54553
CHEMISTRY	2396	358	33	45*	333	52	1075	420	24	222	27*	94	112	5119
COMM. & BUS. ADM.	179597	25493	7991	28336	28973	20090	38731	35416	10007	14108	19127	23127	11585	442581
ENG'G & TECHNOLOGY	107215	16869	2219	12805	5411	4560	24330	24289	3887	1805	6485	9227	6302	225404
FOOD & NUTRITION	5352	3420	204	840	358	424	1011	793	587	198	346	195	171	13899
LAW & FOREIGN SERV.	7762	2073	-	1062	86	1630	3414	2998	730	1467	1324	1324	581	24451
ARTS & SCIENCES	17306	8469	1831	3438	4951	4885	6081	12534	2733	4202	8076	7692	3780	85978
MEDICAL SCIENCE	89527	5921	192	3873	2329	2526	5257	7810	914	1095	1373	2058	492	123367
MUSIC & FINE ARTS	6893	550	46	172	89	220	819	561	99	67	96	18*	-	9612
NAUTICAL SCIENCE	15675	256	-	-	796	150	3159	8061	294	348	732	1207	153	30831
TEACHER TRAINING	19435	6453	3704	7079	6604	6409	8747	5713	5513	4357	5919	6621	5805	92359
MASTERS	10147	3384	564	2672	2251	2270	2313	1890	567	716	849	1637	679	29939
DOCTORAL	1143	342	78	67	260	102	59	314	75	55	90	23	-	2608
TOTAL DEGREE COURSE	471389	75493	18649	65924	57152	46421	102153	105830	27422	31874	47293	56520	34581	1140701
TOTAL TECH./VOC.	51680	21268	4566	7487	4396	6901	9553	5598	4801	3097	6823	4484	4661	135315
GRAND TOTAL	523069	96761	23215	73411	61548	53322	111706	111428	32223	34971	54116	61004	39242	1276016

*Not included in the total

Source: Annual Report, CY 1980

表2－5

Enrolment in Government and Private Tertiary Institutions in Teacher Education by Regions*

REGION	1977-1978 Teacher Training	1978-1979 Teacher Training	1979-1980 Teacher Training	1980-1981 Teacher Training
I	933	7270	7836	6453
II	1144	3092	3553	3704
III	611	5473	5560	7079
IV	936	5685	6019	6604
V	698	3340	5790	6409
VI	652	4757	6603	3747
VII	320	3104	4966	5713
VIII	447	3144	4506	5513
IX	384	2135	3429	4357
X	433	3816	7113	5919
XI	387	3493	4845	6621
XII	619	3177	5467	5805
NCR	1408	15057	18176	19435
Total	8972	63543	83863	92359

Sources: MEC Statistical Bulletins from 1977 to 1981, Planning Service Manila.

2－2－3 教員資格

教員養成コースの取得資格としては下記の5項目の学位取得の課程がある。これは前述の国により施行される永続的な教員としての資格試験の受験資格でもある。

1) Bachelor of Science in Elementary Education
   BSEE
2) Bachelor of Science in Education
   BSE
3) Bachelor of Science in Agriculture Education
   BSAE
4) Bachelor of Science in Industrial Education
   BSIE
5) Bachelor of Science in Business Education
   BSBE

上記に加えいくつかのカレッジ，大学は，修士，博士課程を開講している。PNCの各課程のプログラムを以下に示す。

PHILIPPINE NORMAL COLLEGE
M a n i l a

ACADEMIC DEGREE PROGRAMS

DOCTORAL PROGRAMS

Ed. D., Educational Administration
Ph. D., Bilingual Education
Ph. D., Linguistics (Applied Linguistics)
Ph. D., Linguistics (Theoretical Linguistics)
Ph. D., Linguistics (Malayo-Polynesian)
Ph. D., Linguistics (Interdisciplinary Studies)
Ph. D., Linguistics (Pilipino Linguistics and Literature)

MASTER OF ARTS IN EDUCATION, with specialization in

Administration and Supervision
Child Study
College Teaching (Teaching in Normal Schools)
Drama Education and Theatre Arts
Educational Administration
Guidance and Counseling
Health Education
Home Economics
Language Teaching
Library Science
Mathematics Education
Measurement and Evaluation
Music Education
Non-Formal Education
Physical Education (Dance Education)
Physical Education (Sports)
Pilipino: Linguistics
Pilipino: Language and Literature
Reading: English
Reading: Pilipino
Science and Mathematics Education
Special Education: Teaching the Visually Impaired
Special Education: Teaching the Hearing Impaired
Special Education: Teaching the Gifted

GRADUATE CERTIFICATE, with specialization in

Child Study
Guidance and Counseling
Language Teaching
Measurement and Evaluation

Non-Formal Education
Pilipino: Linguistics
Pilipino: Language and Literature
Reading: English
Reading: Pilipino
Special Education: Teaching the Visually Impaired
Special Education: Teaching the Hearing Impaired
Special Education: Teaching the Gifted

BACHELOR OF SCIENCE IN ELEMENTARY EDUCATION (BSEE)

SPECIALIZATION PROGRAMS (concurrent with BSEE, 18 additional units)

Art Education
Audio-Visual Education
English
Health Education
Home Economics
Library Science
Music Education
Natural Science
Physical Education
Pilipino
Pre-School Education
Practical Arts Science
Social Science
Speech and Drama

BACHELOR OF SCIENCE IN EDUCATION (BSE), major in

Biology
Chemistry
Drama and Speech
English
General Science
History
Home Economics
Library Science
Mathematics
Music
Physical Education
Physics
Pilipino
School Health Education
Social Science
Spanish

BACHELOR OF ARTS (AB), major in

- General Studies
- History
- Psychology
- Sociology

BACHELOR OF SCIENCE (BS), major in

- Biology
- Chemistry
- Communication Technology
- Communication Development
- Foods and Nutrition
- Health Education
- Library Science
- Mathematics
- Physical Science

BACHELOR OF SCIENCE IN ELEMENTARY AND SECONDARY EDUCATION (BSESE), major in

- Drama and Speech
- English
- General Science
- Health and Safety Education
- Home Economics
- Library Science
- Mathematics
- Music and Arts
- Physical Education
- Pilipino
- Social Science

CERTIFICATE IN TEACHING SPANISH IN THE SECONDARY SCHOOL

BACHELOR OF SCIENCE IN MATHEMATICS FOR TEACHERS (BSMT)

BACHELOR OF SCIENCE IN PHYSICS FOR TEACHERS (BSPT)

一例としてBSEE（初等教育）の学位取得課程を日本の東京学芸大学と比較してみる。

表2－6

学習科目	PNC 履修単位	東京学芸大学 履修単位
一般教養	54	36
語学	48	12
教育学	36	49
専門科目	18	34
合計	156	131

出典：PNC Undergraduate Programs 1977 東京学芸大昭和56年度履修の手引

単位数の合計としてはPNCは25単位多いが，PNCは

1. 語学の単位が東京学芸大の4倍である。

   これはフィリピン語と英語の徹底したバイリンガル教育で各々18単位，更にスペイン語が12単位加わっていること。

2. 専門教育よりも一般教養科目に重点がおかれている。

   図2－1学校系統図に示す様に学制の相違で生徒の大学入学年令が日本より2年早く，中等学校が4年制で高等学校の課程がないこと等が考えられる。

   従って専門分野は東京学芸大と比べると約35%減となり，語学を除くとPNC108単位，東京学芸大119単位で，11単位の差がある。

フィリピン政府は学校側に対して教育技術を高めるとともに教員養成における専門分野の知識の取得を促進するため下記の方策を指示している。

1）官立，私立の教員養成学校は全てBSEE課程に専攻項目を1科目以上そなえ，これに伴う必要なスタッフと施設を設けること。

2）学生及び社会のニーズにみあう専門科目をすべての学校は可能な限り開講すること。

3）教育学大学院の履修課程はさまざまな専門分野の教員養成教育を行う者のニーズに合うよう再構成すること。

現在教員養成のカリキュラムにおいて特に重点をおく分野として下記のものがあげられている。

1）語学教育

   a）第2外国語としての英語教育

   b）フィリピン語教育

2) 科学及数学

a) 数　学

b) 自然科学

3) 社　会　科

4) 音楽，美術

5) 保健体育

6) そ　の　他

a) 管理監督

b) 幼児教育

c) 初等教育におけるガイダンス

d) 特殊教育（盲，ろうあ児，及び知恵おくれ児）

e) 初等教育における読み方

f) 視聴覚教育

g) 成人教育

h) 応用技術

i) 初等教育における図書館学

j) 保健体育

k) 体育教育

2－2－4　教員国家試験

表2－4によると年間約6万人～9万人が教員養成教育を受けているが，卒業後国により施行される教員試験に合格して始めて永続的に教員として資格が与えられることになる。

1972年～80年の9年間に5回施行されているが，合格率は低く，難かしい試験とされている。

表2－7に施行年度，受験者数，合格率を示す。なお，ＰＮＣは90％台の合格率を保持している。

表2－7

NUMBER AND PERCENTAGE OF EXAMINEES WHO QUALIFIED IN THE TEACHER EXAMINATION OF 1972 AND 1976 AND THE PROFESSIONAL BOARD EXAMINATION FOR TEACHERS (PBET) OF 1978, 1979 AND 1980

Examination Year	No. of Examinees	Qualified		Failed	
		Number	Percentage	Number	Percentage
1972	206,920	64,225	31.04	142,695	68.96
1976	165,306	16,374	10.48	139,932	89.52
1978	142,142	20,751	14.60	121,391	85.40
1979	105,520	25,901	24.55	79,619	75.45
1980	80,119	(currently being processed)			

SOURCE: Research & Guidance Division, NETC

2－3　第６次国家開発５ケ年計画における教育目標

2－3－1　目　標

1977年より始まった長期及び５ケ年開発計画で掲げる教育分野における５大目標は下記の通りである。

(1)　教育と人材開発の質的向上

(2)　農村地域の生活向上を目指す第一次産業人材養成

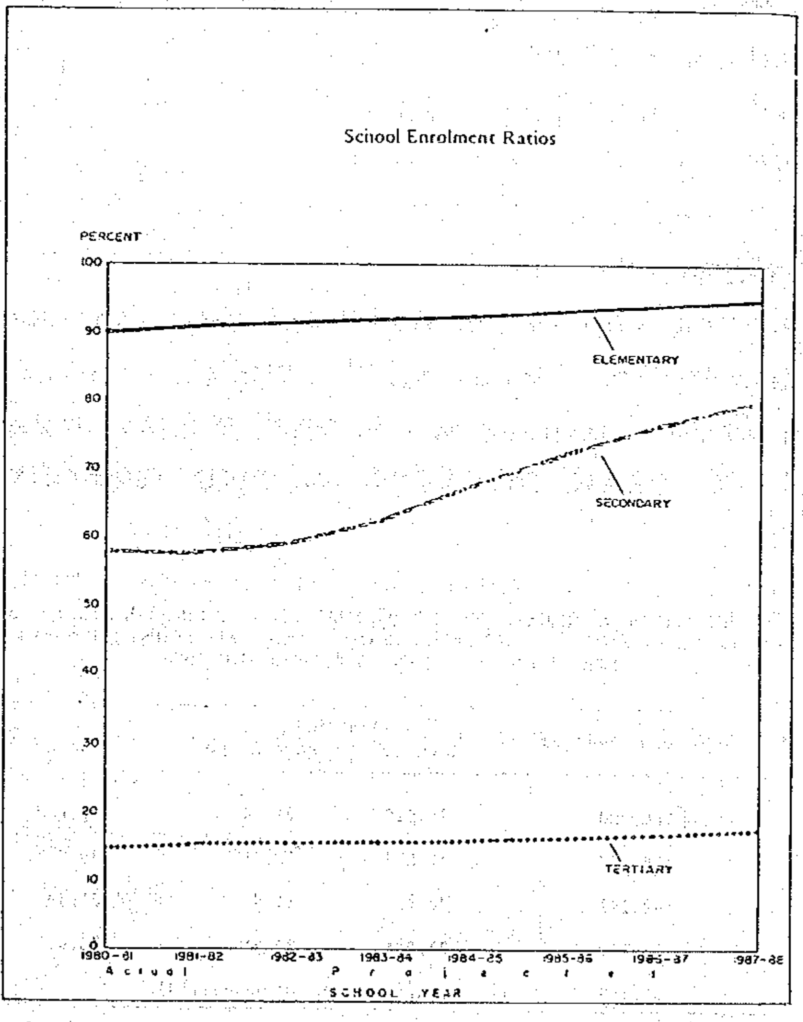
(3)　工業化に必要な人材養成

(4)　奨学制度の拡充

(5)　スポーツ，文化活動の充実と伝達媒体の強化

この目標をかかげて教育の充実をはかっており，これを達成するため特に学校教育の量，質の拡充をはかろうとしている。第６次開発５ケ年計画（1983～87）によると1981年に至る初等，中等高等教育の各レベルにおける就学率の目標値は図２－３の如くであるが，初等教育（義務教育）は1982年現在90%をこえて更に徐々に増加させ，中等教育については現在の58%より1987年には80%に高め高等教育では14.9%を17%とすることが策定されている。

図２－３



Sources: NCSO, MEC.

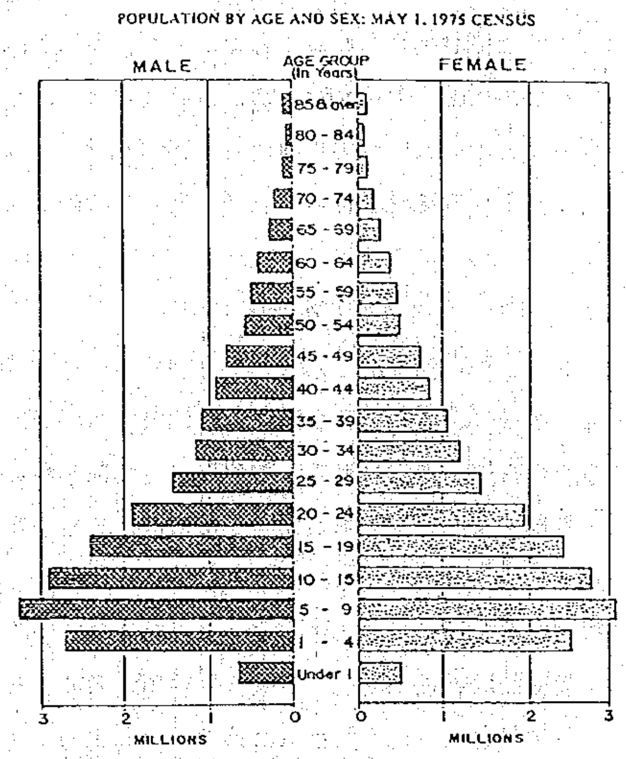
2－3－2　教員需要

フィリピンの年令及び性別による人口構成は1975年5月のセンサスによると図2－4の如くである。この図が8年前であり初等教育が7才より始まり，6年課程であることを考えるとこの図の最大数である5～9才の年令層がそのまま現在中等教育対象者として移行していることが考えられる。

更に第6次国家開発5ヶ年計画によれば，年間約2.2％の人口増加率により，1983年5,200万人，1987年には5,680万人に達するとされているため，教育の面でもそのすみやかな対応が必要とされる。特に中等教育の面での教員不足，社会教育の面でも全国的な教員不足を解消し，更にその質的向上をはかることが急務とされている。特に中等教育の重要性を認識してこの質的向上を目指し，従来1クラス当り35～40人の生徒を30人と規定しこれらの目標にかなうような中等教員の養成が進められている。

又学校外の多くの場を利用して不就学青少年や成人を対象とする一般教養学習，生産技能取得学習，職業技術教育が社会教育（ノンフォーマル教育）の名で盛んに行なわれ，農村の青少年が農村在住のままで中等教育を受けられるようにするために設けられたBarangayハイスクールも全国的に普及しつつあり，又学校外の実社会にいる人々が習得した経験や技能を履修単位とみなし社会人が正規の学校教育制度に復学することが可能になる制度も検討されつつある。

図2－4



SOURCE：PHILIPPINE STATISTICAL YEARBOOK 1982

2－4　フィリピンノーマルカレッジ（PNC）

2－4－1　歴　史

フィリピンノーマルカレッジ（ＰＮＣ）の前身はフィリピンノーマルスクールと称し，米国統治時代に創立された国立最初の高等教育機関であった。これは「フィリピン人に教育学の学習の場を与えるため」というフィリピンコミッション制定法第74により1901年9月正式に開校され，当初エスクエラにあったがその後マニラ市内，タクト通りとアヤラ通りの交叉点に移転した。時の経過に伴って二つの部門が発展していった。即ち一つは教育者養成であり，他は米国等のカレッジ，大学への入学準備教育である。後者はのちに1908年フィリピン大学の中核となって分離することとなったが，前者は1910年に現在の本館の建設とともに拡大発展した。この本館の3階のホールは第二次大戦中フィリピン独立について多くの論議がなされたことで有名であり，国の史跡となっている。1949年共和国法令第416にQuiriuo大統領が署名し，フィリピンノーマルスクールはＰＮＣとかわり，この法令により初等教育者としての資格が与えられることとなった。更に1972年7月現在のMarcos大統領によって署名された共和国法令第6515により教員養成者，学校監督者，行政管理者，研究者及びその他教育指導者の養成に関する博士号（Ph.D., Ed.D.）を授与する大学として認定され，フィリピンにおける教員養成教育のリーダーとして活動し現在に至っている。

2－4－2　運営組織と教職員

ＰＮＣの組織は図２－５によるが表中の運営評議会（Board of Trustees）は教育文化大臣を議長とし，学長を副議長，国家経済開発庁（NEDA）長官をメンバーとして構成され，学校の管理，運営，財政，学位授与，学部学科の設置，学内組織の設置等を決定する。

本部キャンパスのあるマニラ市の他に分校をルソン島AliciaとLopez，ネグロス島Cadiz，ミンダナオ島Prosperidadの4カ所に有し，それぞれの地方で活動を行っているが，大学の行政機構を通じて本部キャンパスと結ばれている。

教職員は現在296名，一般職員約300名である。

各学部講座，担当教官数は表２－８の通りである。（教官は一部兼任）

図2－5

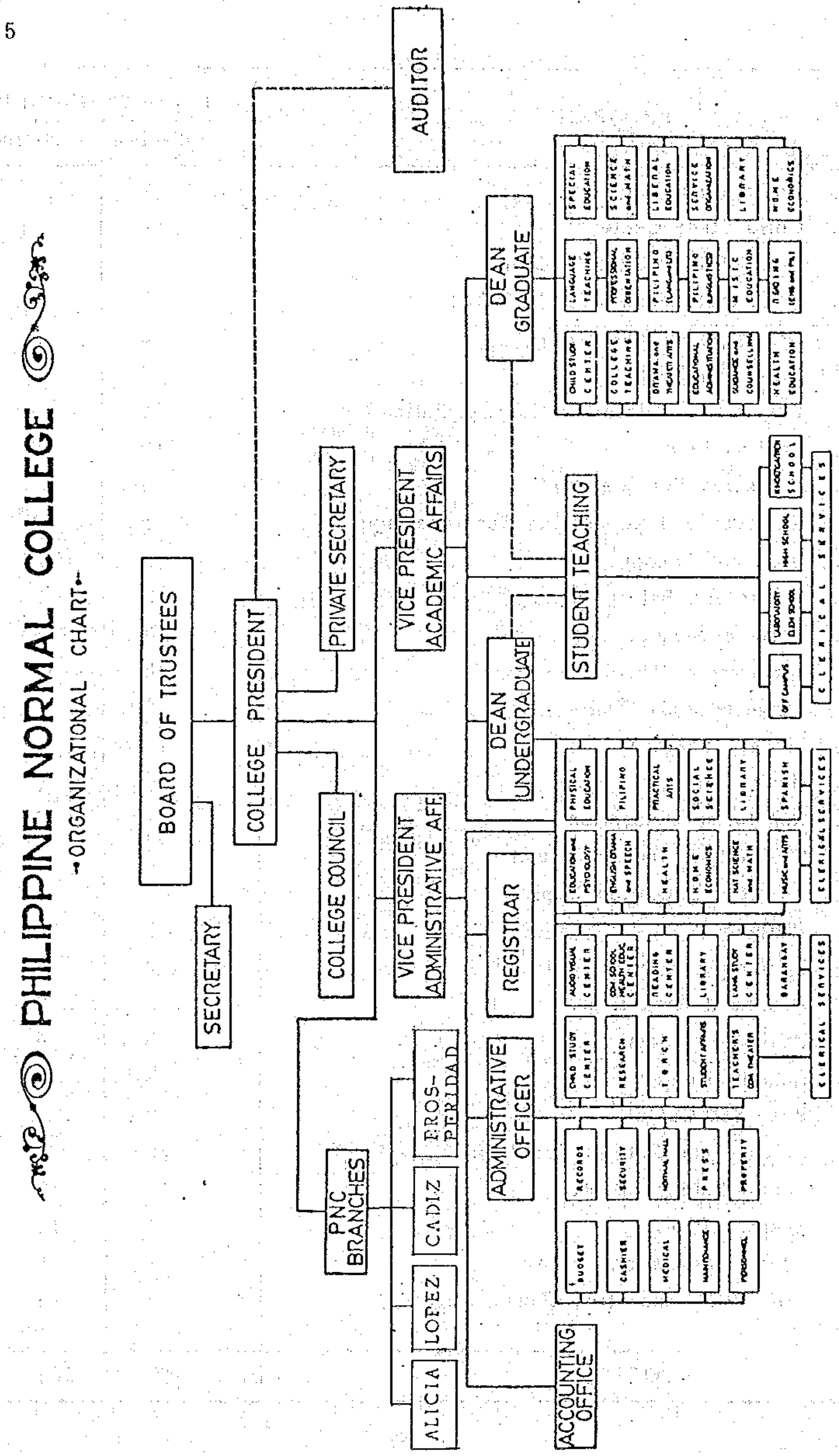

PHILIPPINE NORMAL COLLEGE
ORGANIZATIONAL CHART
AUDITOR
BOARD OF TRUSTEES
SECRETARY
COLLEGE PRESIDENT
PRIVATE SECRETARY
COLLEGE COUNCIL
VICE PRESIDENT ACADEMIC AFFAIRS
VICE PRESIDENT ADMINISTRATIVE AFF.
DEAN GRADUATE
DEAN UNDERGRADUATE
STUDENT TEACHING
REGISTRAR
ADMINISTRATIVE OFFICER
ACCOUNTING OFFICE
PNC BRANCHES
ALICIA
LOPEZ
CADIZ
PROS-PERIDAD
SPECIAL EDUCATION
SCIENCE and MATH
LIBERAL EDUCATION
LIBRARY
HOME ECONOMICS
LANGUAGE TEACHING
MUSIC EDUCATION
CHILD STUDY CENTER
COLLEGE TEACHING
EDUCATIONAL ADMINISTRATION
HEALTH EDUCATION
OFF CAMPUS
HIGH SCHOOL
CLERICAL SERVICES
PHYSICAL EDUCATION
PILIPINO
PRACTICAL ARTS
SOCIAL SCIENCE
SPANISH
HEALTH
NAT SCIENCE and MATH
READING CENTER
BARANGAY
RESEARCH
RECORDS
SECURITY
PRESS
PROPERTY
BUDGET
CASHIER
MEDICAL
MAINTENANCE
PERSONNEL

表2－8

PROGRAM	FACULTY NUMBER	
	Full-time	Part-time
1. Audio Visual Center	2	
2. Child Study Center	4	
3. Dean of Instruction's Office	4	
4. Dean of Student Affair's Office	5	1
5. Drama and Theater Arts	2	2
6. Education Dept.	7	19
7. Educational Administration Specialization	1	3
8. English Dept.	10	18
9. Extension Service Dept.	4	
10. Guidance and Counseling Specialization	1	3
11. Graduate School	4	34
12. Health and Safety Dept.	2	7
13. Home Economics Dept.	7	5
14. Laboratory School	48	5
15. Languge Study Center	25	
16. Library Science	14	
17. Music and Arts Dept.	6	5
18. Non-formal Education	1	3
19. Off-Campus and Field unit	4	
20. Physical Education Dept.	9	12
21. Pilipino Dept.	7	14
22. Pilipino (Linguistics)	2	1
23. Practucal Arts Dept.	2	2
24. Psychology Dept.	5	6
25. Reading Center	3	3
26. Research Center	12	
27. Science and Mathematics Dept.	20	17
28. Social Science Dept.	10	15
29. Spanish Dept.	4	13
30. Special Education Center	2	1
31. DNC-PUP Consortium (Lopez, Quezon)	3	16
TOTAL	230	205

2－4－3　学　　生

学期は6月～11月と12月～5月の二学期制である。1982～83年度の一学期における学生数を表2－10，2－11に示す。授業は昼，夜間の二部制となっている。

表2－9に示すように学生数は1983年現在本部キャンパスで学部学生4,456人，大学院生533人，他に併設の初等学校生徒720人，中等学校生徒480人，他に分校の学生を加えると下表の様になる。

表2－9

		学部学生	大学院生	計	併設 初等学校	併設 中等学校
本部キャンパス		4,456 (昼間 3,622 夜間 834)	533	4,989	720	480
分校	Alicia校	800	－	800	－	－
	Cadiz校	1,000	－	1,000	－	－
	Prosperided校	1,000	－	1,000	－	－
	Lopez校	地元の学校に教師を派遣				
合　　計		7,256	533	7,789	720	480

ＰＮＣの学生の家庭環境を1982年度新入生1,355人についてみると，両親の学歴は中等教育進学までが70%～80%，カレッジ進学は23%～26%，家庭の収入は月収3,000ペソ（1ペソ≒26円）以下の家庭が87%となっている。

これを私立のDe La Salle Uninv.の新入生1,800人と比較すると両親の72%はカレッジ卒業生であり，うち10%は修士又は博士号を取得している。月収も3,000ペソ以下は6%にすぎない。又ＰＮＣでは働きながら通学している学生が6%となっている。

この様にＰＮＣの学生の家庭は一般に低所得階層で，いわゆる庶民階級の子弟のうち向学心に燃えた優秀な学生が集まっており，学生のうち約200名が各種団体の委託奨学生となっており，出身地もフィリピン全土からの地方出身者が多い。

表2－10

REPUBLIKA NG PILIPINAS
Republic of the Philippines
DALUBHASAANG NORMAL NG PILIP.
PHILIPPINE NORMAL COLLEGE
Maynila
Manila

Tanggapan ng Tagatala
Office of the Registrar

REPORT ON ENROLMENT
(SUMMARY)
FIRST SEMESTER 1982-1983

		DAY	EVENING	TOTAL
First Year	-	1,038	317	1,355
Second Year	-	733	181	914
Third Year	-	754	110	864
Fourth Year	-	826	226	1,052
TOTAL Undergraduates:	-	3,351	834	4,185
Cross-Enrolees	-	-	-	99
Special Students	-	-	-	86
Certificates (Undergraduate)	-		-	86
Other Undergraduates:		-	-	271
Master of Arts	-	-	-	497
Doctoral: Ed.D.	-	-	-	13
Ph.D.	-	-	-	23
			GRAND TOTAL -	4,969

CERTIFIED CORRECT:

ROSENDA T. [illegible]ALIS
Officer-in-Charge

/bgg-7-2-82

表２－11

Philippine Normal College
OFFICE OF THE REGISTRAR
Manila

REPORT ON ENROLMENT
First Semester 1982-1983

UNDERGRADUATE LEVEL	B S E E Male	B S E E Female	B S E E Total	B S E Male	B S E Female	B S E Total	B S E S E Male	B S E S E Female	B S E S E Total	B S H T Male	B S H T Female	B S H T Total	B S P T Male	B S P T Female	B S P T Total	AB/BS Male	AB/BS Female	AB/BS Total	TOTAL Male	TOTAL Female	TOTAL Total
Day Sessions:																					
First Year	1	184	185	26	399	425	5	130	135	5	7	12	6	5	11	12	258	270	55	983	1038
Second Year	2	131	133	24	323	347	4	28	32	1	14	15	10	5	15	12	179	191	53	680	733
Third Year	0	150	150	11	330	341	1	42	43	-	-	-	-	-	-	3	217	220	15	739	754
Fourth Year	4	184	188	21	347	368	5	52	57	-	-	-	-	-	-	17	196	213	47	779	826
Undergraduates (Day)	7	649	656	62	1399	1481	15	252	267	6	21	27	16	10	26	44	850	894	170	3181	3351
Evening Sessions:																					
First Year	4	104	108	16	156	172	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	28	37	29	288	317
Second Year	5	62	67	10	70	80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	30	34	19	162	181
Third Year	1	24	25	10	50	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	17	25	19	91	110
Fourth Year	1	57	58	15	126	141	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	26	27	17	209	226
Undergraduates (Eve)	11	247	258	51	402	453	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22	101	123	84	750	834
UNDERGRADUATES (Day and Evening)	18	896	914	133	1801	1934	15	252	267	6	21	27	16	10	26	66	951	1017	254	3931	4185
Cross Registrants																			12	87	99
Special Students																			6	80	86
Certificates																			1	85	86
Other Undergraduates																			19	252	271
GRADUATE LEVEL:																					
Master of Arts																			45	452	497
Ed. D.																			1	12	13
Ph. D.																			1	22	23
Total Graduate																			47	486	533
GRAND TOTAL																			320	4669	4989

CERTIFIED CORRECT:

ROSENDA T. PALIS
Officer-in-Charge

/fqo-7-2-82

2－4－4　ＰＮＣの活動

ＰＮＣの活動は下記の如きものである。

(1)　教員養成教育
(2)　教員養成のための教育者及び研究者の育成，研究
(3)　全国の初等，中等学校の教科書，教材開発
(4)　社会教育（ノンフォーマル教育）
(5)　特殊教育（心身障害児教育）
(6)　近隣大学とのコンソーシアム
(7)　同窓会組織とのネットワーク
(8)　教員再教育

(1)　教員養成教育

教員養成課程の各プログラムは巻末資料によるが，この受講者をＰＮＣは毎年800～1,000人送り出しており，教員国家試験においても90%台の合格率をあげている。又この中で学校図書館のための司書養成コースが設けられている。

(2)　教員養成のための教育者及び研究者の育成，研究

ＰＮＣは教育向上の目的のために研究し，遂行する指導権を持ち，以下の各団体と連合しメンバーとして国際交流を進め，各専門の教師，教育主事，研究者の交流をはかっている。

SEAMEO（Southeast Asian Ministers of Education）関係
RECSAM（Regional Center for Science and Mathematics）本部マレーシア
RELC（Regional Language Center）本部シンガポール
INNOTECH（Center for Educational Innovation and Technology）
ACEID（Asian Programme of Educational Innovation for Development）
of UNESCO　本部バンコク
ASAIHL（Association of Southeast Asian Institution of Higher Education）
PSSC（Philippine Social Science Council）

又，これらの研究のため下記の団体より活動の支援を受けている。

Philippine-American Educational Foundation
British Council
Goethe House
Asia Foundation
U.S Embassy Cultural Office

The Ford Foundation

Japanese Information Center, Embassy of Japan

Cultural Center of Philippines

(3) 教科書，教材開発

ＰＮＣは今日までの教育の分野におけるフィリピン語の研究及び教材開発に対する指導的役割を認められ，初等及び中等教育の教科書，教材及びカリキュラムの開発センターとして教育開発プロジェクト特別調査委員会（EDPITAF）を通じて教育文化省より指定され活動を行なっている。

(4) 社会教育（ノンフォーマル教育）

前記の様にＰＮＣは４ケ所に分校を持っているが，これらは社会教育に大きな役割を果している。即ち，Prosperidad校では学生は開拓地域で農民の生活向上をはかり，Alicia校では地域社会の成人に対し栄養教育，料理，保育等を含む家政学を教えている。本校においてはマニラ都市部にあるため，文化活動グループ（合唱，演劇，オーケストラ，舞踊）が各地方にゆき，さまざまな場所で地域の人々のために公演活動を行なっている。このグループは毎年各地に出かけ，過去８年間活動を続けている。

社会教育は現在下記の７項目のコースがあるが，ＰＮＣではこの一部1)，4)，6)を行なっている。

1) Literary Functional
2) Vocational Skills
3) Technical Courses
4) Sports and Physical Fitness
5) Leadership Training
6) Socio Civic and Cultural Development
7) Communication Information

(5) 特殊教育（心身障害児教育）

現在フィリピンにおける心身障害児の数は6～21才，人口2,100万人のなかで，何らかの形で心身に障害のある児童を含め240万人に達するといわれている。

１９８０年の特殊教育への在籍率は約24,600名で総数の１％強にすぎない。主として聴力障害，視覚障害及び知恵おくれの児童を対象に教育機会の拡大のための努力がされつつある。このための特殊教育の教員養成課程はＰＮＣにおいて１９６３年に開設され，同校を中心として国内外との交流をはかり，モデルクラス設置，教材作製等が現在進められつつある。ＰＮＣは１９６６年以来特殊教育教員を年平均20人養成し，１９８２年までに355人を送り出している。

表２－12に特殊教育のセンター，学校数，教師，在籍生徒数の地区別を示す。

表２－１２

NUMBER OF SPECIAL EDUCATION CENTERS, SPECIAL SCHOOLS TEACHERS TRAINING AND ENROLMENT BY REGION

School Year 1980-1981

REGION	SPECIAL EDUCATION CENTER	SPECIAL SCHOOLS	TEACHERS TRAINED	ENROLMENT*
NCR	9	29	197	1,844
I	2	1	112	248
II			33	163
III	1		74	25
IV	3	3	134	2,140
V			103	5,133
VI	1		99	1,314
VII	1	1	82	12,024
VIII	1		64	1,644
IX			34	20
X			57	12
XI	1		26	77
XII			16	
TOTAL	18	34	1,031	24,644

* *Partial Enrolment on Special Education Classes*

Source: Special Education Division

(6) 近隣大学とのコンソーシアム

ＰＮＣは国立のカレッジではあるが，下記のマニラ市内近隣の他の私立の大学４校とコンソーシアムを形成している。（資Ⅴフィリピンノーマルカレッジ及び周辺各大学案内図参照）

De La Salle Univ.

Philippine Christian Univ.

St. Scholastica's College

St. Paul's College

Philippine Normal College

提携内容は

1) 共通登録制（Cross-enrolment）

2) 共通学位（Shared Degree）

基礎課程と専門課程を各々別の大学で取得し，両大学の学長の署名による共通卒業証書（shared diploma）を取得する。

3) 交換教授（Faculty Exchange）

学校から学校へ輪番制で講義を行う。

4) 芸術提携（Art Consortia）

５校のコーラスグループと演劇グループが合同で文化プログラムを上演する。

5) 教科書執筆プロジェクト（Textbook Writing Project）

５校からの教授陣が教科書の共同執筆者としてチームを組む。

6) 図書館プロジェクト

5校の図書館施設の共通利用及び総合目録システムの確立

7) 同窓会組織とのネットワーク

ＰＮＣは創立以来82年の歴史を持ち教員養成教育の面で指導的役割を果して来た。結果として卒業生に多くの有力な人材を有することから強力な同窓会を持ち，これが同校における教育に関するプログラムと密接につながっている。Marcos大統領の両親を始めとして特に教育文化省関係の要人を始めとし卒業生はフィリピン全土にあまねくひろがっており，教師及び教育行政担当者等の専門家の全国規模のネットワークの中心としての役割を同校は果している。

8) 教員再教育

ＰＮＣにおける教員再教育はＰＮＣ卒業者に限定せず他校の卒業者に対しても広く行なっている。再教育内容は教育管理学，教育計画，特殊教育，語学教育，ガイダンス，体育，幼児教育等にわたり期末の４～５月にかけ約３～４週間の研修教育を行なう。

ＰＮＣでは1983年度に教育計画520人，幼児教育250人の研修が予定されている。

2－4－5　施設の現況

マニラ市内にある本部キャンパスは，全敷地面積約42,000m²，周辺の道路及び隣地境界に沿い，中心にある校庭を囲む形で施設建物が配置されている。アヤラ通りを隔てた敷地には女女子寮，保健教育センターが建てられている。

本館①は1909年，教育実習教室⑤は1920年の建設であるが，他の建物は第二次大戦後のものである。

施設面の不備，老朽化が甚だしく，図中⑫の建物は使用不可能，又⑬⑲㉔の建物は現在工事中である。⑬は南側半分は完成して使用中であるが北側は仕上工事を残して，予算措置がつくまで工事をストップした状態のまま使用されていない。

学生数に比して教室及び学生の為の部屋の余裕がなく，溢れた学生は，食堂や校庭側の屋根付外廊下（巾約６ｍ）に机を置いて自習している状況である。

図４－２　既存建物配置図参照

2－5　ＰＮＣ図書館の現況

2－5－1　歴　史

図書館は下記の年代順に設立された。

1936年	教育実習教室図書室設立
1952年	教育文化省より寄贈の図書959冊を機にメインライブラリーとして本館1階の一部に設立
1954年	アネックスライブラリー開設
1967年	児童研究センター図書室設立
1970年	大学院図書室を設立
1979年	語学研究センター図書館開設

2－5－2　施　設

現在のＰＮＣの図書館施設の主なものの規模，閲覧座席数等は表2－13の通りであり，本部キャンパス内の建物に分散している。メインライブラリーは本館建物の1階玄関ホール部分を改造，その他も（語学研修センターとアネックスライブラリーを除いて）在来の教室，研究室，等を改造して設立され，そのまま便宜的に仮使用している状態で，各種の図書資料が散在している。このため利用者は希望の資料を入手するのに多大の労力を費やさざるを得ない。又資料によっては閲覧場所がないため利用出来ないものもあり，寄贈図書があっても収納場所がないため受入れが出来ない状況である。

2－5－3　組織及び人員

現在の図書館関係職員は下記の通り。

司　書	12名
非専門職	20名
学生（パートタイム）	16名（ＰＮＣ学生で成績の良いものを採用）

各図書室別内訳は表2－13，蔵書の分野別内訳を表2－14，現在の図書館組織図を図2－6に示す。

2－5－4　閲覧座席数及び利用状況

閲覧座席数は表2－13に示す様に合計537席である。

利用状況は語学研修センター図書室を除いてはほぼ満席の状況である。理由として，

- 指定図書制度を採用していること。
- 前記の様に学内施設が不足していること。

。地方出身者が多く寮，下宿生が多い。

。学生の家庭の経済的利用から自習場所がなく，又書籍類が高価なため参考書類の購入が少く，一方日本の学生と比べて個人で本を持つ習慣が少い。

等が考えられる。

図書館利用状況を把握する方法として学生に対するアンケート調査及び図書資料の貸出データの収集を実施した。表2－15，2～16参照。

当大学学生143人についてアンケート調査を実施したが，PNC図書館の利用は100％で，うち約70％が頻繁に利用している。図書館に対する要望も多くその内容は，

1.	蔵書数の不足	34.5％
2.	貸出制限の不満	19.7
3.	レファレンスサービスの向上	19.7
4.	閲覧座席の不足	15.2
5.	開館時間の延長	3.4
6.	そ の 他	7.5

となっている。

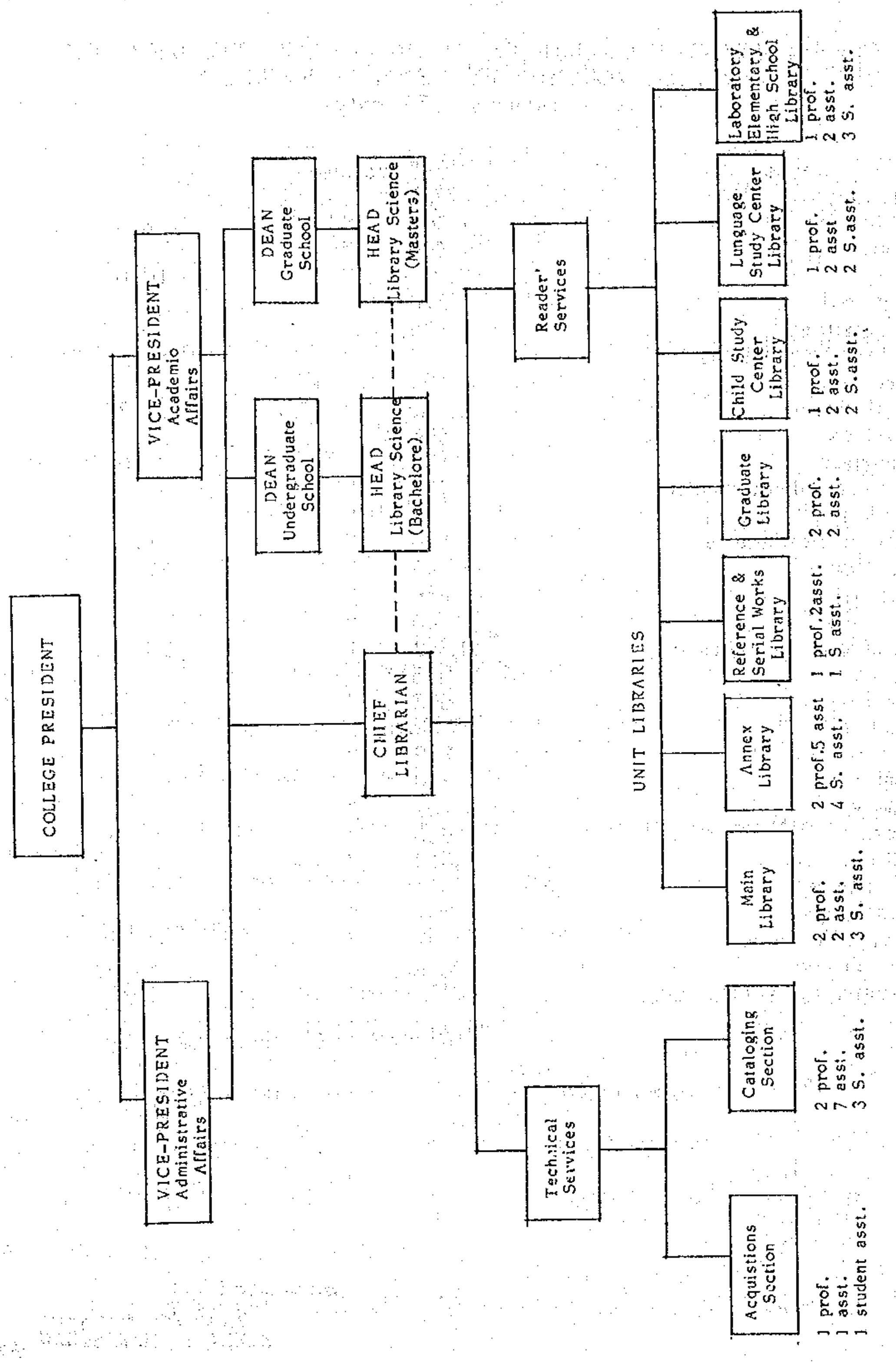
貸出データによると1982～'83年度で200,451冊，これを大学院を含めた学生1人当りの冊数にすると40冊となる。これは次項2－5－5の他大学との比較においても高い位であり，少い蔵書が高度に利用されていると云うべきであろう。

表2－13　既存各図書館の現況

Library	Opening Hour	Books／Volumes as of May 1982	Staff			Floor Area(m²)	Seats
			Prof.	Non.	S.A.		
Main	7:30–8:30	9,414	2	33	3	241.00	68
Annex	7:30–8:30	28,765	1	4	4	534.66	193
Reference	7:30–7:30	2,733	1	1	1	79.00	34
Granduate	7:30–7:30	3,096	2	1	3	70.00	50
Language Study Center	7:30–6:00	2,498	1	1	1	106.00	100
Child Study Center	7:30–8:30	895	1	1	1	72.00	22
Laboratory School	8:00–5:00	6,132	1	1	2	60.00	70
Technical Service	7:30–5:00	—	3	8	1	54.45	—
TOTAL		53,527	12	20	16	1,217,47	537
Others		18,778					
G. TOTAL		72,305					
Periodicals		207 title					

Prof.　Professional Librarian
Non.　Non-Professional
S.A.　Student Assistant

図2－6　現在の図書館組織図



ORGANIZATIONAL CHART OF THE PHILIPPINE NORMAL COLLEGE LIBRARY(PRESENT)

表2−14　蔵書の分野別内訳

PHILIPPINE NORMAL COLLEGE
Library
Manila

CLASSIFICATION OF THE EXISTING LIBRARY HOLDINGS OF
72, 305 VOLUMES BY SUBJECT FIELDS *
(as of January 1983 only)

			%
General Works	958	valumes	
Philosopy	333	"	
Psychology	1,903	"	2.6
Religion	408	"	
History	7,719	"	10.6
Geography	278	"	
Anthropology	128	"	
Folklore & Customs	42	"	
Recreation	180	"	
Social Science	5,248	"	7.2
Statistics	508	"	
Economics	1,173	"	1.6
Business Administration	357	"	
Sociology	210	"	
Political Science & Law	1,110	"	1.5
Education	22,599	"	31.2
Music	986	"	
Fine Arts	740	"	
Language & Literature	20,372	"	28.1
Science	615	"	
Mathematics	593	"	
Astronomy	86	"	
Physics	219	"	
Chemistry	340	"	
Geology	137	"	
Biology	933	"	
Health	1,610	"	2.2
Agriculture	522	"	
Technology	257	"	
Military Science	37	"	
Naval Science	None		
Bibliography & Lib. Sc.	1,704	"	2.3
TOTAL	72,305	volumes	

Submitted by:
RUBEN P. MARASIGAN

* (Based from the Library of Congress Classification Scheme)

表2−15 アンケートフォームおよび回答結果

Questionnaires

n.a : no answer

Please check each items.

1. Your name: ______ (Last) (First name) (M.I.)

2. Course:
Undergraduate − 1st year 2   3rd year 9
2nd year 10   4th year 87

graduate − M. A. 20
Ph. D. 1
n.a. 14

Total 143

3. Have you ever used library, e.g. public, academic or special Libraries?

[141] (98.6%) yes   [2] (1.4%) no

4. Have you ever used the PNC libraries?

[143] (100%) yes   [0] (0%) no

5. If yes, how often?

[98] (68.5%) frequently   [44] (30.8%) sometimes   [0] scarcely   n.a [1]

6. If yes, what is your impression about the library service?

[60] (42%) satisfied   [82] (55.9%) unsatisfied   n.a. [2]

7. If unsatisfied, what reasons?

[70] (34.5%) library collections are too small or not sufficient.

[31] (15.2%) reading seats are deficient.

[40] (19.7%) reference service is not adequate.

[7] (3.4%) opening hour is short.

[40] (19.7%) lending Service is limited.

[15] (7.5%) others, please write down concretely.

8. Do you think that library is necessary or worthy for your scademic life ?

[141] (98.6%) yes   [0] no   no answer [2]

9. How often do you read book?

[7] (4.9%) rarely   [32] (22.4%) sometime   [12] (43.4%) frequently   [43] (30.1%) always

10. In this year, did you buy any books?   [117] (81.8%) yes   [21] (14.7%) no   n.a. [5]

Thank you for your cooperation.

表2－16　図書資料の貸出状況

PHILIPPINE NORMAL COLLEGE
Manila

CIRCULATION STATISTICS
Monthly Distribution by Unit Libraries
School Year 1982 – '83
(Including Summer '82)

	MAIN	ANNEX	GRAD.	REF.	L. S. L.	C. S. C	L. S. C.	TOTAL
APRIL	2,038	1,978	2,943	692	–	893	1,239	9,583
MAY	5,124	2,692	3,335	625	–	1,024	932	13,732
JUNE	8,436	4,652	1,130	433	133	900	590	16,275
JULY	5,239	10,075	3,019	1,585	295	1,204	581	21,998
AUGUST	3,349	17,778	2,922	2,395	324	2,365	622	29,755
SEPTEMBER	4,742	7,134	1,463	2,272	921	1,634	784	18,950
OCTOBER	2,103	4,982	1,072	1,296	464	1,104	704	11,705
NOVEMBER	5,370	11,033	2,262	671	1,339	847	962	22,484
DECEMBER	5,981	3,540	1,176	1,327	95	811	1,032	13,962
JANUARY	4,302	8,839	1,198	1,733	527	1,024	1,123	19,346
FEBRUARY	1,401	6,713	1,826	1,505	343	989	917	13,694
MARCH	1,892	3,057	1,321	1,511	–	442	744	8,967
T O T A L	49,977	82,474	24,067	16,025	4,441	13,237	10,230	200,451

MIGUEL M. COBARIA